

地域・保護者・学校関係者への教育長メッセージ ③⑤
『津島市領事館プロジェクト』

私が教師として初めて国際交流活動を行ったのは、今から23年前すでに四半世紀が経とうとしています。美和町立美和小学校で行いました。私は教務主任で、海部地域ではまだ十分行われていなかった「英語」と「オーストラリアからの留学生との交流会」を実施しました。当時の津島女子高校に協力して頂きました。留学生は高校生だったので、美和小の子どもたちの面倒をみてくれました。書道や茶道、図工の授業を小学生と一緒に体験しました。スクールランチがとても好評でした。国際交流活動を進めるためには、英語と同じくらい自分の住んでいる地域について知っていないと駄目だということを知りました。

その後、私は津島市立南小学校の校長となり、平成29年と30年の2年間韓国領事館との交流を行いました。平成29年度には、韓国の現地校の東山小学校、30数名の子どもたちと教職員の皆さんが来校してくださいました。日本の子どもたちと一緒に授業を受けました。この交流会に先立ち、領事館のサポートチームの方たちから、ハングルや韓国の食文化・歴史について学びました。また教職員の皆さんと合同の教育会議をもち、日韓のそれぞれの学校から学ぶべき点について話し合いました。ICTの進んでいる韓国の状況をうかがいました。

その後も津島市では『領事館プロジェクト』として、名古屋にある領事館を窓口とした国際交流の輪を広げています。ねらいは「ダイバーシティ（多様性）」の理解。自分の意志で変えることのできない特性を大切にすること。お互いの違いを受け入れ、理解し、認め合い、生かしあうことです。今年も9月の高台寺小と中国領事館との交流に始まり、北小と韓国、神島田小とアメリカ、西小とブラジル、神守小とカナダ、蛭間小とトルコまで6つの交流活動が終了しました。これらの活動については、中日新聞や西尾張CATVで紹介されています。中国の「切り絵」韓国の「K-POP」、それぞれの領事館が素敵な学習メニューを用意し、言語や料理、観光地や歴史の話をお聞かせいただいています。子どもたちが特に関心をもつのはそれぞれの国の学校の話です。

また各小学校は「ご当地津島紹介」や「日本の歴史文化」など地域の歴史を中心に領事館の人たちに自国文化を伝えています。クイズ形式や書道や茶道などの体験を通して、楽しく発表をしています。

これからの国際交流活動では、異文化への知的好奇心を高めると共に、世界言語である英語力を高め、領事館の人たちやICT（遠隔授業や会議）を介して継続的に異文化と関わりをもってほしいと思っています。また同じ学校に通う外国にルーツをもつ児童生徒と積極的に接してほしいのです。今後は津島市の国際交流協会や市内の高校とも連携を深めていきたいと思っています。

誠実と三度書きをり筆始め

令和5年2月6日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視